

虹のように多彩な特性、艶やかなご飯

暑さに強く、たくさんとれる「にじのきらめき」



イメージ

コシヒカリより  
高温・病気に強く  
3割多収、  
さらにおいしい  
期待の水稲品種

コシヒカリより多彩な特徴を併せ持った新品種「**にじのきらめき**」を育成しました。

本品種は、これまでの高温登熟耐性品種の多くが備えていなかったイネ縞葉枯病等に抵抗性があり、農薬散布を減らした低コスト栽培が可能です。また、北陸および関東以西の幅広い地域で栽培が可能で、広く普及が見込まれます。

平成30年に品種登録出願されてから、岐阜県では**大手米卸が地元JAに働きかけて産地化し、外食チェーン向けに米を供給**しています。栃木県、茨城県などでも普及が広がりにつつあります。



栽培講習会には多くの生産者が参加するなど、高い関心（写真：岐阜県）



安定した品質が魅力の「にじのきらめき」の生産に、JA・米卸業者・カレーチェーン店が連携

研究代表機関

農研機構

プロジェクト名

温暖化の進行に適応する品種・育種素材の開発

研究期間

平成27年度～  
令和元年度

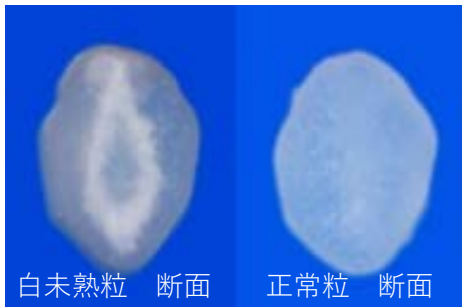
〔 共同研究機関：北海道、宮城県、栃木県、三重県、和歌山県、福岡県、九州大学、神戸大学 等 〕

## 研究背景

温暖化の進行に伴い、イネの実る期間が高温傾向になると、米の一部又は全部が白く濁った白未熟粒の発生が増加し、米の食味や精米したときの歩留まりの低下や、それによる販売価格の低下を招くことが問題となっています。

また、中食・外食ニーズが増加し、収量向上のため多肥料でも倒れにくく、縞葉枯病などの防除コストが低減できる品種が必要とされています。

これらのニーズに対応するため、多彩な特徴を併せ持つ水稻品種「にじのきらめき」を育成しました。（平成30年、品種登録出願）



白未熟粒の割合が高いと品位、食味が低下する



イネ縞葉枯病は、生育不良や穂の異常につながり、減収をもたらす（媒介するヒメトビウナカは、麦作地帯で発生しやすい害虫）

## 主要な成果（「にじのきらめき」の特性）

① 高温でもよく実り、イネ縞葉枯病に抵抗性をもつ

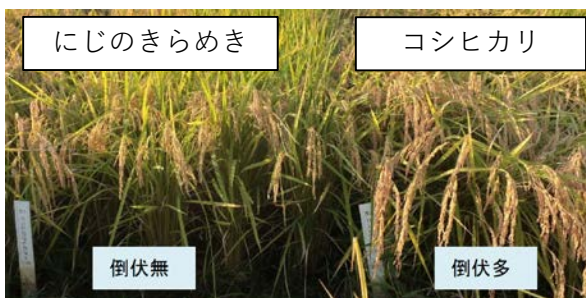
➡ 高温傾向でも安定生産が可能で、イネ縞葉枯病が多い麦作地帯への普及も容易

② やや大粒で、茎が短くて倒れにくい

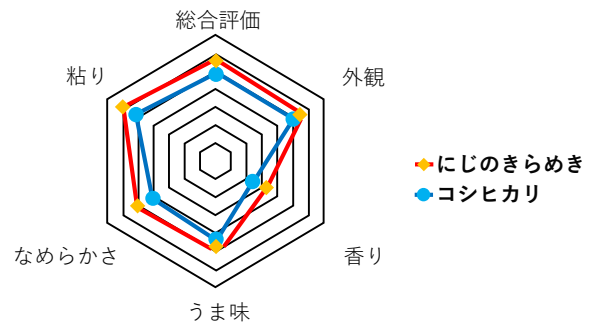
➡ コシヒカリに比べて15～30%多収

③ コシヒカリと同等の食味

➡ 実需者が求める美味しいお米



茎が短いため倒伏に強く収穫量が多いため、高い収益性が見込まれる



コシヒカリと同等の極良食味米